

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372800799
法人名	社会福祉法人 恵寿会
事業所名	グループホーム グリーンヒルみふね
訪問調査日	平成 20 年 11 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 8 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4372800799
法人名	社会福祉法人 恵寿会
事業所名	グループホーム グリーンヒルみふね
所在地 (電話番号)	熊本県上益城郡御船町木倉1720-1 (電 話) 096-281-7787

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(20年 11 月 13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	18	人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤	人, 常勤換算 14

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート・平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		800 円	

(4)利用者の概要(11月 13 日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	本庄内科病院 ・益城病院 ・入江歯科医院 ・小糸整形外科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>小高い丘の上に位置するホームは四季の移り変わりを肌で感じながら、広大な併設施設から眼下に広がる町の景色を楽しみ、季節ごとに果実や野菜の収穫に触れながらゆっくりとした時間の流れる場所にある。両ユニットをつなぐウッドデッキは各ユニットを孤立させることなく相互の協調性に一役を担っている。各ユニットには、経験豊かな職員がバランスよく配置されている。職員は全員が常勤雇用であり資格習得の為のバックアップやレベル向上の為の様々な研修に意欲的に取り組んでいる。地域福祉の拠点として更なる進化が期待される。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を受け、改善項目を一年かけ見直している。中でも特に、“地域とのつきあい”に力を入れ取り組み、地域の清掃活動やリサイクル活動に参加したり、地域商店街への買い物等、できる事に積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については全職員で意見を出し合い、管理者や各ユニット係長とでまとめあげたものである。管理者は出来ている事、いない事を日々の状況の中から確認し、改善に向け真摯に取り組まれた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>二ヶ月に一度開催されている運営推進会議には、毎回多くの参加者を得ており、活発な意見交換がなされている。今後は、参加されていない家族へ内容等を報告し共有されることを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年二回の家族会や面会時に入居者の近況を報告している。又、管理者や職員は機会あるごとに家族と対話し家族との関係構築に努め、意見や要望の出しやすい雰囲気作りを心がけている。これまで運営全般に関する意見等は出ていないが、今後それらの意見や要望が出された際は、家族の立場、気持ちに添った対応のもと運営に反映させていきたいとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的な地域との関わりが難しい立地条件にも関わらず、“今出来る事から”をもとに代表者始め全職員が地域の中に溶け込む努力をし、“グリーンヒル組”として積極的に地域行事に参加している。今後も町や運営推進会議の地区の代表者より情報を収集し、ホームと地域の方々との関係が深まる事を期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は“明るく、楽しく、優しく”のわかりやすい言葉で表現されている。地域密着型サービスとなっただけでも地域という文言をあえて追加せず理念にこめられた意義を大切にしながら地域との連携を深めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲げると共に、朝のミーティングで唱和を行い介護の基本としている。又、実習で訪れた学生へもオリエンテーションの中で介護職員に携わる者の心構えとして紹介している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地条件から、日常的な地域との関わりは難しい様であるが、“グリーンヒル組”として近隣組織に加入し行政や地域の情報収集に努めている。又、地域の清掃活動やリサイクル活動にも積極的に参加している。“今出来る事から”をもっと色々の機会を通じ自ら地域の中に溶け込む努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を受け、改善項目を一年間をかけ見直している。特に、“地域とのつきあい”に力を入れ取り組んでいる。今回の自己評価については職員全員で意見を出し合い管理者と各ユニット係長がまとめあげたものである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地区の区長、民生委員、家族会、入居者代表等の参加を得て毎回活発な会議が開催されている。ホームの取り組みや課題を紹介すると共に町や地区の代表から情報を収集しホーム運営に活かしている。参加されていない家族への議事録の送付は行われていない。	○	有意義な会議が開催されているので、参加されていない家族へ内容等を報告し共有されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携の重要性を認識し、キャラバンメイト(認知症啓発活動)の研修に参加しや、入居希望者の相談や情報交換を行っている。地域包括の紹介による入居者もおられる。今後連携強化の為に積極的な行き来の機会を作っていきたい意向である	○	ホームは地域に貢献する気持ちを常に持っている。今後、行政との更なる関係構築により地域福祉の拠点となる事を期待したい。

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年二回の家族会には殆どの家族が出席されホームとの関わりが窺える。その席や日々の面会時に十分時間をとり入居者の近況報告を行っている。金銭管理についても毎月収支報告を行い家族からのサインにて確認としている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は機会あるごとに家族と対話し、お互いの関係構築に努めると共に、家族が意見を出しやすい雰囲気作りを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は殆どなく異動についても家族に報告し、入居者に精神的ダメージが生じないよう十分配慮している。		

5. 人材の育成と支援

10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベル向上に積極的に取り組みまずは、勉強する姿勢を評価しながら試験日を有休扱いとする等資格習得を支援している。又、19年度から導入した人事考課制度により職員の自己管理に力を入れている。母体で実施している全体研修・毎月の勉強会や外部研修等様々な研修に参加する機会が得られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内のグループホーム連絡協議会に加入し、二ヶ月に一度の勉強会や相互訪問を実施し他のホームとの情報交換や職員のレベル向上に努めている。本年度は当ホームが研修担当施設となっており活発な運営が行われている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体施設のショートステイや併設デイサービスからの入居も多く、ホーム内の見学や入居者とお茶を楽しんでもらう等入居後の生活に早く馴染んでもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自然豊かな地で季節毎に梅を収穫し、漬けたり、杏や桃等でジャム作りをしたり、畑で芋ほりをする等、自然の恩恵の中、職員と入居者が一方通行の関わりでなく、お互いに認め助け合い一人ひとりに合った対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が長年培ってきた生活全般にわたる詳細な情報を全職員で共有し、入居者が“今、何をしたいのか”言葉や仕草の中から引き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に話し合いの時間をもち家族の希望や入居者の思いを聞き取っている。個々の介護を職員の担当制とし担当職員の情報や意見を反映しながらプラン作りを行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化や必要に応じ計画期間に関係なく、本人や家族の意向を踏まえながら見直しやプラン変更を行なっている。又、プラン変更時には全職員に周知徹底し共有化を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ外出や買物、医療機関への同行等柔軟に対応している。温泉一泊旅行も入居者・家族・職員で行っている。同法人の車や施設利用などにより入居者の活動や楽しみの輪を広げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を確認しながら基本的にはホームが受診対応を行なっている。かかりつけ医との密な情報交換や定期的な往診、受診前後の家族への報告、訪問歯科等の医療支援は家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される入居者については家族や医師、関係者と十分に話し合い方向性を決めている。今後も時代のニーズを考慮し検討を重ねていきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	難聴者の方への声のトーンやトイレの誘導、手引きの際の声かけなど尊厳に配慮した対応である。個人情報や守秘義務についてもミーティングや勉強会にて日頃より確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるものの一人ひとりのペースで自由な生活を支援している。起床もその日の本人の体調にあわせ、昼食時も嚥下状態を確認しながらゆっくり個々のペースを大切に支援されていた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや旬の食材を取り入れた献立を心がけ、食材の買出しや料理の下ごしらえ、片付け等出来る事を一緒に行っている。職員も同じものを同じ時間に、料理の味やその日の天候の話をしたり、デザートもころあいを見て提供するなど和やかな時間であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同敷地の温泉施設より引いた温泉入浴は入居者の楽しみの一つであり希望に応じ毎日支援している。「温泉だけん楽しみですもん！」と、にこやかに話される様子に入居者の日常を感じ取れる。安全性確保の為定期的レジオネラ菌検査も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のこれまでを大切に力量に応じ、菜園管理や、食事の準備・片付け、洗濯たたみ等自信に繋がる支援を行なっている。割烹着に袖を通し台所に立ち、茶碗洗い・拭き、その後流し台の隅々までふきあげられた表情に張り合いや喜びを感じとれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広大な敷地はまさに、“グリーンヒル村”である。日常的に敷地内を散歩したり、地域神社へのお参りや町内外への買物・ドライブなど外出の機会を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害は全職員理解し、日中は開放的な空間での生活を支援している。玄関は面会者の為に遅くまで開放し訪れやすい雰囲気である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜想定避難訓練をはじめ、法人全体の消化訓練にも参加している。地域の消防団の協力で夜間見回り等も行なわれている。今後も地域消防団との関係作りを深めたい意向である。	○	今後地域の消防団の方にもできる範囲で運営推進会議の参加を依頼し、引き続きホームへの理解と協力が得られるよう努めていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日30品目の食材を目標に新鮮な菜園野菜を取り入れたバランスに配慮した献立である。水分確保も1000ccを目安に三食時やおやつ・必要に応じた声かけ等で支援している。食事形態も体調や個々に応じやわらかめのご飯や固めものはカットするなど個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りの植物やリビング等に季節の花が生けられている。食堂や廊下には、日めくりカレンダー・共同作品・誕生会の様子をまとめ掲示する等温かい雰囲気である。共用空間のソファでは、ゆっくり寛ぎテレビを見たり新聞を読んだり懐かしい歌をうたったり、食堂から隣のユニットへ通じるウッドデッキは日向ぼっこやお茶を楽しむことができる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・洗面台・クローゼットが備え付けられ、写真やカレンダー・小物など家族の協力による持込や、個々の状態に応じ職員の観察・配慮による居室作りがなされている。どの居室からも樹木や自然の変化を感じ取る事ができ、換気・室温調整がこまめに行われている事もゆったりとした居心地のよさに繋がっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームグリーンヒルみふね
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6
記入者名 (管理者)	西川 八寿子
記入日	平成 20 年 11 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人が人に関わる中で仕事だけの理念でなく、周囲の方々に対しても同じような気持ちで接していきたいとの思いがある。入居者の方々との生活を通し、支え、支えられている人間関係を大切にし、また地域の皆様との交流の中で、事業所の果たすべき役割を理解していただけるための原点でもある。	○	職員一人ひとりが地域に対する理解を深め、地域住民としての意識のもと、利用者と共に住民としての役割を担って行く。理念を地域の中で共有することが入居者のより良い生活につながるため、今後の大きな努力項目として行く。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に大きく掲げ、毎朝のミーティング時に全員で唱和している。また実習生等にも介護に関わる上での基本姿勢としてオリエンテーションの際伝えている。日々の目標とし実践に取り組んでいる。	○	毎日のケア内容と理念の持つ意味や整合性を認識し、理念の共有と自らの業務、ケアについて振り返り、方向性を見直す。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所として目標とする理念は、家族をはじめ地域の皆様に少しずつ啓発をおこなっている。家族との交流の中で理念を共有していただけるよう伝えている。また地域活動や運営推進会議の中で今後も更に浸透できるよう努力したい。	○	GHの役割、運営方針と共に理念に添ったケアの実践について、理解し協働いただけるよう家族や地域の中に継続しはたらきかける。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当施設の立地上、身近にお付き合いしたり、立ち寄っていただけることが困難であるため、交流の場を積極的に設け、顔馴染みになったり、気軽に声をかけていただけるようなおつきあいができるよう少しずつ努力している。	○	気軽な交流が容易でないため、日常的に声を掛けあうことは困難であるが現状の中で可能なことから取り組み、地域の皆様との交流を図りながら馴染みの関係作りに努める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の会合や行事等には、積極的に参加している。自治会にも加入しており、必要な情報は連絡いただき回覧板等も大いに利用できている。また運営推進会議において早めの情報も得ることができている。	○	地域行事、リサイクル活動への参加や、保育園、小学校等の交流を通し、地域の一員として生活することでGHの存在をアピールして行きたい。実績として、今年度はわかば保育園の運動会に参加したり、当ホーム開催のスポーツ大会に園児を招待し交流を深めた。また周辺の木倉小学校の発表会に参加し交流を深めた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度から町全体の敬老会に代わり、校区単位での開催に変更になった。そのため当地区の敬老会は当事業所内の地域交流センターでの開催となったが、18名の入所者の方も名簿に加えていただき、地域住民として参加することができた。開催にあたり、全職員が協力し、会場設営等を行い、関係者の皆様に大変喜んでいただいた。	○	地域に貢献する気持ちは常に職員が意識し心がけている。まだ実施は充分とはいえないが、一方的な思いではなく、地域からも信頼し、気軽に必要な依頼をしていただける関係を築いていきたい。また今年度は認知症キャラバンメイト研修を受講できたため、必要に応じ、また自主的な認知症啓発活動を実践する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を全員が理解しており、サービス向上の指針として努力項目を把握し日々の振り返りとし改善に取り組んでいる。	○	外部評価の結果を今後のケアの努力項目として、入居者のQOL向上と認知症ケアに携わる職員の質向上のため、全員が意識し努力する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、GH運営全般における報告や外部評価における結果報告、改善項目について詳細に報告している。当GHの情報を提供し、協力体制作り賛同いただくと共に、会議内での意見はスタッフ間に周知しサービス向上に努めている。	○	運営推進会議の内容に対する意見や質疑、今後の取り組み課題等につき活発な意見が得られるような進行に努め、有意義な会議の場としたい。議題についても多岐にわたる内容を計画し、行政、地域、GHのより良い関係作りとして活用する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症キャラバンメイトの研修企画に伴い、当GH職員も参加し、町との連携のもと活動に寄与する体制がある。また入居者に関する相談や、情報交換を行なっている。	○	運営推進会議の設置以前は、気軽に行き来することに躊躇する面があったが、設置後は以前より容易に関わることができるようになった。今後は連携強化のため積極的に行き来する機会を作っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	常に研修の機会を得、職員全員が制度に関する知識、情報の交換を行なっている。対象となる入居者はいないが、学びを深めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、全職員が充分理解しており、これまでの経験を生かし、柔軟な対応と介護力により個人を尊厳した統一したケアが実施できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項や契約内容、GHでの生活全般の説明を充分に行っている。家族からの質問等に関しても、入居前後、随時丁寧に対応し理解を得ている。	○	入居に至るまでの関わりの中で、信頼し安心して契約していただけることを前提とし、より良い人間関係を大切にす る。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉をしっかり受け止め、意見や苦情については本人と話す時間を充分にとっている。思いに添った本人主体の生活ができることを大切にしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要と思われる時は報告、連絡、相談を随時行っている。特に面会時は、できる限り時間をとり、近況報告を行い、情報共有に努めている。金銭管理については、毎月収支報告を行いサインをいただいている。	○	家族との連携において、詳細な報告、必要な連絡、相談等随時行うと共に、コミュニケーションを大切にしながら、利用者、家族、職員の柔軟な関係による温もりのある生活を提供したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで運営全般に関する苦情、意見等はいただいているが、家族会、また個々の話し合いの中でお互いの立場を排除した自由な発言が得られる関係作りを行っている。	○	家族、職員が交流の場を通し、忌憚のない意見や要望を気軽に発言していただき、家族の立場、気持ちに添った対応のもと運営に反映していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体での勉強会、GH勉強会、役職者会議、事業所連絡会、等において運営に関する現状や、今後の展望につき職員が周知しそれぞれの意見や提案について全体で検討を行った上で反映させている。	○	運営全般において、職員の発想や提案を反映することは、職員一人ひとりの奮起、向上につながるため、自由な発言のできる環境を大切に、また年2回のヒアリングを実行していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月間行事や予定外行事、利用者の状態変化、家族の申し出があった場合等、職員間の連携により必要に応じた柔軟な勤務調整ができている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特養の併設施設であり、若干の異動は有るが、個人的な理由での退職はほとんどない。利用者へのダメージは見受けられず、馴染みの関係が保たれている。施設全体の異動についても、最小限の異動であり入居者への影響も少ないよう配慮されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成19年度より人事考課制度を導入。3ヵ月毎の目標設定と評価を行い、進捗状況の確認と自らの振り返りの機会となっている。また外部研修については、段階に応じた職員の参加を実施しており、研修報告もGH勉強会にて行い情報共有ができています。	○ 目標達成のため全員で努力する姿勢と職員間のチームワーク作りを常に意識し、強化する。また施設内外の研修参加により日常業務についての気づき、共感を得ながら、更なる向上の機会とする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城郡ブロック協議会において2ヶ月に一度勉強会を実施している。情報交換、講師依頼による研修会、懇親会等を行い、意欲的に取り組んでいる。相互間の訪問も行い、良いネットワークが構築できている。	○ 昨年度より上益城ブロック研修担当施設となり、協議会実施については職員全員の協力のもと、当地域交流センターにおき定期的に実施している。小規模多機能施設、有料老人ホームの情報も得ることができている。他GHとの情報交換や同業者間の良い関係作りができるため、今後も盛会となるよう努める。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場対抗のスポーツ会に参加したり、職員慰安旅行の参加、食事会等により、気分転換や楽しみ事への参加を行い、ストレス軽減に取り組んでいる。一人ひとりのヒアリングも実施しているが随時話し合いの機会も設け、できる限り悩み等の把握に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	平成19年度より人事考課制度を導入し、本人の目標達成度を自己評価や上司評価により把握し、目標の未達成な場合は何が足りなかったのかヒアリングの中で上司が本人に伝え、今後の取り組みに対しアドバイスを行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に訪問調査を行い、本人や家族の思いを傾聴し、何を必要とし、何を望んでいるのかを見極め、入居後の生活に充分反映、実現できるよう受け止めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族の現状を把握し、その中での問題や希望について充分話し合いを行い、安心して利用していただけるプロセスを大切にしている。家族との信頼関係を最重視し、傾聴すること、受容の姿勢を大切にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、担当ケアマネ、母体施設代表者と共に話し合いを持ち、また関連施設との連携を取りながら、まず何が必要かを見極めながら総合的に対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の体験利用、ホーム内の見学等を家族と相談しながら実施し、入居者の方々とお茶の時間や楽しみ事への参加を行い、入居後の生活に馴染んでいただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者への一方的な支援業務ではなく、利用者一人ひとりの関わりを大事にしながら、共に笑い楽しむ時間を共有している。信頼を深め、互いを知り合う心の通う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者だけでなく家族とも心の通い合う関係を築き、双方が利用者の支えになることが大事であると認識しており、実行している。気軽に話し合える関係ができているのではないかと考えている。	○	利用者のより良い暮らしのために、家族との関係は最も大切である。思いに共感したり、傾聴したりし、節度のある言動に心掛けGH職員として信頼を得、気軽に話し合える関係作りに今後も努力していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	長年の家族間の関係を把握し、家族のそれぞれの思いを理解し、本人にとってよりよい家族関係が維持できるようなサポートが大切だと思っている。場合によっては関係修復の必要性があるケースが出てくることも有り得るが、出過ぎず、控え過ぎず、誠心誠意対応していきたい。	○	認知症の進行に伴い、家族関係が希薄にならないよう、行事への参加や、可能な範囲での外出、自由な外泊等の協力を得ている。今後も家族、利用者間の良い関係作りのパイ役とし関わって行く。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当GHは小高い丘の上にあり、近所の方が気軽に立ち寄っていただける環境ではないため、こちらから積極的に地域に出かけていたり、デイサービスとの行き来を行っている。地区行事にも全員で参加し、馴染みの方と出会う機会を多く持つよう努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者ばかりでなく職員も含め、家族という形を構成していると感じている。体調が悪ければ皆でいたわりあい、明るい話題には皆で歓喜し、一喜一憂を共にしながら支えあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用時に良い関係が築けているため契約中ばかりの関係でないことはお互い感じている。継続的な関わりは喜んで行いたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意欲の低下した方については、その思いばかりを尊重してられない場合もあり、職員として葛藤を感じるころであるが、共感と受容の大切さは十分認識している。家族に対する思いが強い方については家族と話し合いを行い、精神的な安寧が得られるまでのサポートを協力依頼している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	リロケーションダメージを防ぐために、生活歴や現在の生活全般の情報をできる限り収集し、全体像の把握に努めている。	○	特に新しい入居者の情報につき、全職員が詳細な情報を得、共有しながらその人らしい生活を支援できるよう努める。些細な情報でも重視し、全体像を把握するよう関わって行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の健康チェックやバランスのよい食事の提供、メリハリのある日々の活動などで熱発等ほとんどなく、良好な心身状態が維持できているように思う。しかし加齢に伴う体力低下や、認知症の進行による理解力の低下は否めないため、日々の微細な変化を見逃さないよう、皆で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者が一同に集った話し合いはできていないが、家族や主治医とのコミュニケーションはよくとれおり、介護計画はそれまで収集した情報をもとに作成している。意見やアイデアは反映されており、本人の思いを何より重視して作成にあたっている。	○	利用者の状態の変化に対する気づき、アイデアや意見を反映して全職員、関係者を含めたプラン作成とする。利用者の生活向上と職員間のケアの指針としてケアプランをあらためて意識づけて行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に関係なく、毎月初めにモニタリングを行っている。家族に連絡・相談が必要な事項については日を置かず対処し、現状に即した対応を行っている。	○	現状に即したプランの見直しを実施する。利用者、家族の意向を反映しながら、その方への尊厳と温もりのあるプラン作りに努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人ケース記録に日中、夜間帯を色分けして記録している。職員間の申し送り帳の活用も徹底しており、全員が情報を共有し介護にあたっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	狭い田舎町の施設であるため、特養やデイサービスに知り合いが多く、遊びに行ったり来たりを柔軟に行っている。また職員の異動もあるため、施設内のどこへ行っても多くの人から声をかけられるという良い面を有している。	○	自由に活動でき、柔軟な対応が可能なGHの特性を活かし、親戚訪問や、家族との外出、墓参り等利用者の希望に添った活動を臨機応変に対応して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の中高大学の職場体験や介護実習が毎年行われており、日々の彩りとなっている。保育園・小学校とは特に交流が深く、一緒に遊ぶ行事は何より楽しい時間となっている。また運営推進会議の導入により「私たちは地域に支えられている」という実感を持つことができた。これは大きな収穫であったと思う。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認知症が軽度で年齢も若い利用者に対して「本当にここがいいのか」という問題を抱えており、本人・家族・他のサービス事業者と話し合いの時間をもっているところである。本人の意向・必要性については全面的にバックアップをしていきたいし、それが私たちの重要な役目だと思っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を必要とする利用者は今のところいないが、入所に関する内容や個人の情報は双方で共有し、連携を取りながら利用者に関わっている。随時連絡を取り合いながら協働している。	○	双方の情報交換により、気軽に連携し利用者の生活向上を図り、更なる良好な関係作りに努める。今年にはキャラバンメイト研修に参加、地域包括支援センターと協働し認知症啓発活動においても共に取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援については十分にできており、本人・家族とも安心されているのではないかと思います。かかりつけ医とも細やかな情報交換ができており、家族に対して事前の相談・事後の報告もきちんと行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	初診時は家族にも同行していただき、主治医による詳しい聞き取りと薬についてのインフォームドコンセントも行われている。相談には快く応じていただき、職員勉強会では認知症についての講義も引き受けていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各棟とも看護職員が1名ずつ配置されているため、利用者や家族だけでなく介護職員としても心強いところである。加えて母体施設にも看護師が10名ほどおり、必要に応じ応援を得ることができている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時ばかりでなく、日常においても医療関係者との情報交換・連携に努めている。また入院前後の病状経過については、主治医・家族・職員による話し合いの場を設け、現状把握を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合は、事前にかかりつけ医、施設の話し合いを設け、検討を重ねながら状況に即した対応を実施し、方針を共有している。	○	GH・宅老所連絡協議会では早くから終末期に向けた方針について賛否両論の中、議論が交わされているが、当GHでもそのあり方を検討してところである。しかし現段階としては、設立当初の位置づけをそのまま継続しており、運動能力の高い認知症の方を受け入れ対象としている。入所後身体介護が重度になった場合は併設の特養に移っていただいているが、時代のニーズを考慮し引き続き検討を重ねていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在当GHでは、ターミナルケアを積極的に行なうという方針はとっていない。将来的な方向性は未定だが、GH設立当初の目的に沿って運営しているところである。	○	現在、可能な限りGHでの生活が継続できるよう支援を行っている。また家族の意向に添いながら主治医との連携のもと、予想されるリスクに対して、事前の防止策を検討しながら対応している。医療行為が必要な場合を除き、GHでの生活を継続していただけるよう取り組んでいく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化によるダメージを最小限に防ぐため、事前の訪問による生活環境の把握、本人に関わる関係者との情報交換をおこなっている。異空間に対するダメージを防ぐための居室作りや、寄り添うことによる心の安定を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、利用者のプライバシーを損なう声かけや対応は行っていない。また個人情報の守秘義務についても理解しており、職員・家族間でも了承している。	○ 常にGH職員としての資質向上を意識し、尊厳と思いやりのある関わり、誠実な対応のできる職員でありたい。高齢者に関わる上での職業マナーとして、自分の言動に責任を持ち、お互いを高め合って行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた声かけをし、思いや希望を引き出せるような対応をしながら自己決定につながるよう支援をしている。職員側の都合によりすべてを決定していくという誤りに陥らないよう、常に律しているところである。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの能力に合った対応を行い、その人のペースに合わせてながら、気持ちを感じ取り満足して過ごせるよう支援している。理想通りにはいかないこともあるが、あくまでも理想と現実を一致させる努力を忘れず支援していききたい。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれや身だしなみについては、利用者本人の意向を尊重し、アドバイスを含め支援している。理美容については以前は美容院に行っていたが、職員がヘアカットやヘアカラーを行うようになると、そのほうがいいとの希望が多くなり、定着するようになった。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調を見ながら、可能な限り買い物や調理、後片付けに至るまで利用者と職員が共に行い、食事の楽しみを持ってもらっている。一緒に作ったものを一緒にいただくことの重要性を感じている。	○ 作ること、食べる事の楽しみを共有することで、より親しみのある関係作りと、長年の暮らしの中で培った習慣、得意なこと等、できることの喜びを、共に大切に支援していききたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	数ヶ月前までは飲酒・喫煙を習慣とされる方がいたが、主治医のすすめにより飲酒については行事時のみ少量いただくという生活スタイルになった。体調不良により偏食が出てきた方については主治医と相談の上、好みに合わせた個人的な食事を提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツの使用者はいるが、時間ごとに排泄の声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。脚力が低下して転倒の恐れがある利用者については、夜間のみポータブルトイレを使用し、誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隣接の温泉から引いた天然かけ流し温泉で入浴を楽しんでいただいている。日曜日以外は毎日入浴を実施しているが、一日おきに入浴される方が大半である。希望者及び必要な方には、日曜日も対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はリビングで皆と一緒に過ごされる時間が多いが、疲れたときはオープンスペースの和室や、自室で休まれている。また二匹の猫と遊ぶのも癒しの時となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には日常の生活において、掃除機かけやイスの出し入れ、食材の買出しに食材刻み、食器洗いのあとの拭きあげや食器収納、更には洗濯物干し・たたみなど、生活のいろいろな場面において手伝っていただいている。それを張り合いにもしていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については事務所の金庫で預かっている。力量のある利用者には対応しているが、ほとんどの利用者が金庫に入れていることで安心されている。	○	人が生活する上でお金は大切な関わりを持っている。一人ひとりの状態に添いながら、可能な範囲で金銭を使ったり払ったりする生活行為、楽しみを支援して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住宅地ではなく山間部に位置しているため、景観や敷地面積においてはどこにも負けないという自負がある。そのため真夏と真冬以外は屋外で過ごす時間が長い。隣接の産地直送の物産館には毎日のように一緒に買い物に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1～2回の外出計画を立て、利用者全員で出かけ楽しく過ごしている。また2号館と合同での外出も行っていて、互いの交流を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が手紙を書いて出すという要望はないが、いつでも対応はできる。電話をかけたいとの希望には取次ぎをして家族等との会話を支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい環境・雰囲気にするため、面会時間を広くとり、面会簿も用意していない(会話を交わすことによりわかるため)。節度あるマナーを心がけ、お茶をお出しして近況等お伝えしながら対応をしている。また四季の草花の美しさや周囲の樹木の逞しさも来客者に喜んでいただいていることの一つである。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、全員が認識をもっており、認知症介護に携わるスタッフとして正しく理解し全く行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全館施錠をせず、開放的な空間の中で生活していただいている。夜間の居室の施錠時間は19時、玄関は来客者のため遅くまで開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物内は見通しの良い造りになっていて、利用者の所在や様子の把握はできるのだが、9室とも居室の掃きだし窓から出入りが可能なため、一日に何度も外へ出て行かれる現状がある。しかし離所を防ぐための施錠はしないという気概を職員全員が持っており、所在確認を常に行いながら安全に配慮し、毎日を過ごしている。	○	事業所全体の協力を得ながら職員間の連携強化により、離所の危険性を常に意識し、所在確認を行い安全な生活を支援する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に危険な物品は利用者の目の届かない場所に保管している。また日常使用する物品については、利用者の能力に応じ見守りの中使用していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事業所全体及びGHで事故防止についての勉強会を月1回定例で行い、防止に努めている。一旦発生した場合は、GH職員で再発防止策を検討する反省会を開き、その結果も含め報告書に記録している。事業所全体で日々事故防止に取り組んでいる。	○	常に危機感を持ち発生時の適切な対応、今後の防止策につき充分話し合い、確認する。一人ひとりの状態に応じた個別の防止策のもと、事故防止に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	経験の長い職員が揃っているため(平均11年)一応の応急手当は可能だが、さらに事業所全体及びGH勉強会で知識を深めている。各棟に看護師が配置されているため日常的に学ぶこともできている。	○	常時継続的に学びを深め、確実に対応、実践できるよう全職員がマスターする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練を年2回実施している。施設長はじめ役職者の見学の中行うことで非常に緊迫した訓練ができています。毎回真剣に取り組むものの反省点も毎回あり、非常に有意義な訓練になっている。地域の方々とも仲良くなり、協力いただけるものと思っている。	○	地域密着型施設として、今後も運営推進会議や地域会合の中で協力体制作りの重要性を呼びかけ、地域住民の方々との支えあいを更に働きかけて行く。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	当GHの方針として、利用者に窮屈な思いをしていただきたくないという思いがあるため、リスクもそれに伴い高くなっていく。全館開錠を始め、家事の手伝い、頻回な外出等、毎日がハイリスクの中での生活となっている。そのため家族会総会で、起こり得るリスクについての理解を求めたり、日頃の面会の中でも会話を通じ理解をいただく努力をしている。	○	常に現状報告を密に行い、予測されるリスクの発生につき話し合うと共に、当GHの理念に添った威圧感のない生活支援を行なっていくことについてご理解いただく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日10時に健康チェックを行い、必要時はこまめに再検も行っている。連絡事項は口頭での申し送りのほか連絡帳に記入し、重度化や入院を防ぐ努力をしている。健康状態の推移は個別の記録に残し、変化や対応を検討している。	○	変化の早期発見と迅速な対応を基本とし、報告、連絡、相談を徹底する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録に薬の副作用が記された処方箋を綴り用法、用量の把握に努めている・症状に変化が見られた場合は主治医に報告、連絡、相談を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのよい献立、一日30種以上の食品の摂取、1000cc以上の水分摂取を心掛けている。運動については早朝のラジオ体操、散歩、室内ゲーム、室内外の軽作業等を行っている。把握が必要な利用者については、それぞれに合った排泄支援を実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄、うがいを行い、義歯は毎晩洗浄液に浸している。また起床時と外出後はイソジンによるうがいをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	今年度も冬季の発生に向けた研修やシミュレーションによる対処法につき全員が学びを深めている。また家族への早期の呼びかけや文書送付により感染防止策の一環としている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○	食中毒及び感染症に関わる知識を深め、食材、器材の取り扱いには最新の注意を払い、事故発生防止を年間の目標とし、調理に携わる。うがい、手洗いを徹底し職員自らの健康管理を充分に行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	居室は7畳程度しかない広さであるが、できる限り長年生活されてきた我が家の再現をしていただきたいというのが職員の本音である。しかしながら利用者の認知症及び身体的レベルにより居室内をシンプルにせざるを得ない場合もある。家具を置くということはハイリスクにもつながり悩みは尽きないが、できる限り理想を求めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リノベーションダメージについて家族に説明し、本人が使用されていた家具類を持ってきていただき、安心して過ごせる空間になるよう努力しているが、実際は新しく買って持ってくる場合が多い。たとえ持って来ていただいてもカーペットにつまずいたり、テーブルの上に乗られたりするため、撤去せざるを得ない場合もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に気を配り、臭いが淀まないようにしている。各居室には消臭コロンを置き爽やかに感じるようにしている。また各居室やリビングに温湿度計を置いて室温調整を行い、厚着・薄着の利用者にはそれぞれ対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は和室の上がり口以外段差はなく、廊下の両側・浴室・トイレには手摺を設置し、安全に移動ができるようになっている。またリビングにはソファを置き、自由に寛げるようにしている。設立時以降も必要と思われる場所には手摺を増やし、安全性に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には表札をかかげ、それでもわかりにくい方の入り口にはマスコットを下げたりして、間違えて他室に入らないよう工夫している。トイレにも(便所)と表示し、迷わないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	両棟間のウッドデッキには利用者が楽しめるようにテーブルや長椅子を置き、互いに行き来できる交流の場となっている。畑や花壇には季節を感じる花や野菜であふれ、視覚でも味覚でも楽しむことができている。隣接のGG場には年中プレイをしている方が大勢おり、遠景の山々は美しく、すばらしい自然を満喫できている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・環境に恵まれた中にあり天然温泉100%の入浴が毎日できる。 ・全職員が豊富な介護経験を有しており、柔軟な対応ができる。 ・家庭生活においても経験が豊かな 職員ばかりであり、料理のメニューも多彩であり上手。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームグリーンヒルみふね
(ユニット名)	2号館
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6
記入者名 (管理者)	西川 八寿子
記入日	平成 20 年 11 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	職員一人ひとりが地域に対する理解を深め、地域住民としての意識のもと、利用者と共に住民としての役割を担って行く。理念を地域の中で共有することが入居者のより良い生活につながるため、今後の大きな努力項目で行く。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	毎日のケア内容と理念の持つ意味や整合性を認識し、理念の共有と自らの業務、ケアについて振り返り、方向性を見直す。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	GHの役割、運営方針と共に理念に添ったケアの実践について、理解し協働いただけるよう家族や地域の中に継続しはたらきかける。
○			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	気軽な交流が容易でないため、日常的に声を掛けあうことは困難であるが現状の中で可能なことから取り組み、地域の皆様との交流を図りながら馴染みの関係作りに努める。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域行事、リサイクル活動への参加や、保育園、小学校等の交流を通し、地域の一員として生活することでGHの存在をアピールして行きたい。実績として、今年度はわかば保育園の運動会に参加したり、当ホーム開催のスポーツ大会に園児を招待し交流を深めた。また周辺の木倉小学校の発表会に参加し交流を深めた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度から町全体の敬老会に代わり、校区単位での開催に変更になった。そのため当地区の敬老会は当事業所内の地域交流センターでの開催となったが、18名の入所者の方も名簿に加えていただき、地域住民として参加することができた。開催にあたり、全職員が協力し、会場設営等を行い、関係者の皆様に大変喜んでいただいた。	○	地域に貢献する気持ちは常に職員が意識し心がけている。まだ実施は不十分であるが、一方的な思いではなく、地域からも信頼し、気軽に必要な依頼をしていただける関係を築いていきたい。又、今年度は認知症キャラバンメイト研修を受講できたため、必要に応じ、又、自主的な認知症啓発活動を実践する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を全員が理解しており、サービス向上の指針として努力項目を把握し日々の振り返りとし改善に取り組んでいる。	○	外部評価の結果を今後のケアの努力項目として、入居者のQOL向上と認知症ケアに携わる職員の質向上のため、全員が意識し努力する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、GH運営全般における報告や外部評価における結果報告、改善項目について詳細に報告している。当GHの情報を提供し、協力体制作り賛同いただくと共に、会議内での意見はスタッフ間に周知しサービス向上に努めている。	○	運営推進会議の内容に対する意見や質疑、今後の取り組み課題等につき活発な意見が得られるような進行に努め、有意義な会議の場としたい。議題についても多岐にわたる内容を計画し、行政、地域、GHのより良い関係作りとして活用する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症キャラバンメイトの研修企画に伴い、当GH職員も参加し、町との連携のもと活動に寄与する体制がある。また入居者に関する相談や、情報交換を行なっている。	○	運営推進会議の設置以前は、気軽に行き来することに躊躇する面があったが、設置後は以前より容易に関わることができるようになった。今後は連携強化のため積極的に行き来する機会を作っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	常に研修の機会を得、職員全員が制度に関する知識、情報の交換を行なっている。対象となる入居者はいないが、学びを深めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、全職員が充分理解しており、これまでの経験を生かし、柔軟な対応と介護力により個人を尊厳した統一したケアが実施できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項や契約内容、GHでの生活全般の説明を充分に行っている。家族からの質問等に関しても、入居前後、随時丁寧に対応し理解を得ている。</p>	<p>○</p> <p>入居に至るまでの関わりの中で、信頼し安心して契約していただけることを前庭とし、より良い人間関係を大切ににする。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉をしっかり受け止め、意見や苦情については本人と話す時間を充分にとっている。思いに添った本人主体の生活ができることを大切にしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や必要と思われる時は報告、連絡、相談を随時行っている。特に面会時は、できる限り時間をとり、近況報告を行い、情報共有に努めている。金銭管理については、毎月収支報告を行いサインをいただいている。</p>	<p>○</p> <p>家族との連携において、詳細な報告、必要な連絡、相談等随時行うと共に、コミュニケーションを大切にしながら、利用者、家族、職員の柔軟な関係による温もりのある生活を提供したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>これまで運営全般に関する苦情、意見等はいただいているが、家族会、また個々の話し合いの中でお互いの立場を排除した自由な発言が得られる関係作りを行っている。</p>	<p>○</p> <p>家族、職員が交流の場を通し、屈託のない意見や要望を気軽に発言していただき、家族の立場、気持ちに添った対応のもと運営に反映していく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>施設全体での勉強会、GH勉強会、役職者会議、事業所連絡会等において、運営に関する現状や今後の展望につき、職員が周知しそれぞれの意見や提案について全体で検討を行った上で反映させている。</p>	<p>○</p> <p>運営全般において、職員の発想や提案を反映することは、職員一人ひとりの奮起、向上につながるため、自由な発言のできる環境を大切に、また年2回のヒアリングを実行していきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月間行事や予定外行事、利用者の状態変化、家族の申し出があった場合等、職員間の連携により必要に応じた柔軟な勤務調整ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特養の併設施設であり、若干の異動は有るが、個人的な理由での退職はほとんどない。利用者へのダメージは見受けられず、馴染みの関係が保たれている。施設全体の異動についても、最小限の異動であり入居者への影響も少ないよう配慮されている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	目標達成のため全員で努力する姿勢と職員間のチームワーク作りを常に意識し、強化する。また施設内外の研修参加により日常業務についての気づき、共感を得ながら、更なる向上の機会とする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	昨年度より上益城ブロック会研修担当施設となり、協議会実施については職員全員の協力のもと、当地域交流センターにおき定期的に実施している。小規模多機能施設、有料老人ホームの情報も得ることができている。他GHとの情報交換や同業者間の良い関係作りができるため、今後も盛会となるよう努める。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、担当ケアマネ、母体施設代表者と共に話し合いを持ち、また関連施設との連携を取りながら、まず何が必要かを見極めながら総合的に対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の体験利用、ホーム内の見学等を家族と相談しながら実施し、入居者の方々とお茶の時間や楽しみ事への参加を行い、入居後の生活に馴染んでいただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	サービスを提供する立場だけでなく、人と人との関わりを大切にし、職員も一緒に楽しんだり、思いに共感しながら利用者、職員の間関係作りを大切にしている。全ての活動の中で共に喜怒哀楽を感じることが利用者を知り、自分達を知っていただくことと考える。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員が良い関係を築くことが本人にとって最も良い環境であり、介護を実践する上で不可欠な事である。本人・家族・職員の良好な関係を維持し、気軽に話し合える体制を築いている。	○	利用者のより良い暮らしのために、家族との関係は最も大切である。思いに共感したり、傾聴したりし、節度のある言動に心掛けGH職員として信頼を得、気軽に話し合える関係作りに今後も努力していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの生活においての家族の状況、関係を把握し、それぞれの思いを理解し、本人にとってより良い家族関係が維持できることへの支援は大切な役目である。出過ぎず、控え過ぎずを考慮しながら家族の良い関係作りを行っている。	○	認知症の進行に伴い、家族関係が希薄にならないよう、行事への参加や、可能な範囲での外出、自由な外泊等の協力を得ている。今後も家族、利用者間の良い関係作りのパイ役とし関わって行く。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域商店への買い物や、地区行事に参加することによる顔見知りの方々との触れ合いを大切にしている。又外出時は馴染みの場所や知っている町並みを通ったりし、感情へのはたき掛けをおこなっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりが家族の一員として支えあう雰囲気を大切にしている。職員の関わりを通し、それぞれの存在感を感じていただくことはお互いを認め合い、平等な関係作りにつながっている。またグループ活動を行いながら、よい関わりが維持できるよう見守っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族からの問い合わせ等に関してはもちろんのこと、GHにおいて培った友好的な関係の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体の状況に関する心配、家族のこと、居室の様様替え、片付け等本人の不安や希望に対し十分に話し合いをもちながら対応している。受容し共に行動、共感することを大切にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活全般の情報や嗜好に至るまでを全体像を理解するための必須事項として常に新しい情報収集に努めている。	○	特に新しい入居者の情報につき、全職員が詳細な情報を得、共有しながらその人らしい生活を支援できるよう努める。些細な情報でも重視し、全体像を把握するよう関わって行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の健康チェック、心身の健康状態に配慮しながら変化を見極め、一人ひとりの残存機能を最大限に活かしながらできることへの関わりを職員全員が周知し実行している。		
○				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者をふくめた話し合いはできていないが、面会時等に家族との話し合いの時間をもち、会話の中から意向や希望を引き出しながらプランに反映している。また日々、本人と接する中において思いを察知し、スタッフの情報、意見を反映し作成している。	○	利用者の状態の変化に対する気づき、アイデアや意見を反映し、全職員、関係者を含めたプラン作成とする。利用者の生活向上と職員間のケアの指針としてケアプランをあらためて意識づけて行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に関係なく、必要に応じ随時話し合いを行い家族にも連絡相談を行い現状を踏まえた作成を行っている。また直ちにスタッフ間の統一した関わりができるよう周知している。	○	現状に即したプランの見直しを実施する。利用者、家族の意向を反映しながら、その方への尊厳と温もりのあるプラン作りに努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人ケース記録に日中、夜間帯を色分けして記録している。職員間の連携を充分にとり、申し送り帳の活用もやっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のその時々々の状況、職員の勤務体制と連動しながら可能な限り、要望に添った柔軟な対応を行っている。	○	自由に活動でき、柔軟な対応が可能なGHの特性を活かし、親戚訪問や、家族との外出、墓参り等利用者の希望に添った活動を臨機応変に対応して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の個人的関係による民生委員、ボランティアの訪問や、学校、保育園等に協力を得、日常生活の向上、交流を支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の経済的な事情やGHでの生活が困難になった場合等、家族、併設施設、関係者をふくめた話し合いを行い、柔軟な対応を行い利用者、家族の意向に添うための支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所に関する内容や個人の情報を双方で共有し、連携を取りながら利用者に関わっている。随時連絡を取り合いながら協働している。	○	双方の情報交換により、気軽に連携し利用者の生活向上を図り、更なる良好な関係作りに努める。今年にはキャラバンメイト研修に参加、地域包括支援センターと協働し認知症啓発活動においても共に取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院においてもDrとの情報交換を行ない、適切な医療を受ける体制が整っている。希望時受診、定期的な回診等、常に医療機関との連携を重視し特別な場合を除いては職員が受診支援を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の協力病院と連携を取り、必要に応じた受診を行っている。担当Drと家族を含めた話し合いの場はいつでも設けられる体制がとれている。必要な指示助言もその都度受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	GH職員として看護スタッフが配置されており、また母体施設の看護師とも連携し、必要に応じ応援を得ている。日常の変化にも迅速に対応でき、的確な対応に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院開始から退院に至る過程や、日常的に看護師を中心とし、病院関係者との連携に努めている。また入院前後の病状経過についてDr、家族、職員による話し合いの場を作り、現状把握と情報共有に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合は、事前にかかり付け医、施設の話し合いを設け、検討を重ねながら状況に即した対応を実施し、方針を共有している。	○	GH・宅老所連絡協議会では早くから終末期に向けた方針について賛否両論の中、議論が交わされているが、当GHでもそのあり方を検討してところである。しかし現段階としては、設立当初の位置づけをそのまま継続しており、運動能力の高い認知症の方を受け入れ対象としている。入所後身体介護が重度になった場合は併設の特養に移っていただいているが、時代のニーズを考慮し引き続き検討を重ねていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態の変化により、施設内でできること、できないことの見極め、看護師を中心に家族、かかり付け医との連携をとりながらチームケアを実践している。介護と医療の見極めによる的確な生活支援を重視している。	○	現在、可能な限りGHでの生活ができるよう支援を行なっている。また家族の意向に添いながら主治医との連携の元、リスクを予測、事前の防止策を検討しながら対応している。医療の継続的な支援を要する場合を除き、GHでの生活を継続できるよう取り組んでいく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化によるダメージを最小限に防ぐため、事前の訪問による生活環境の把握、本人に関わる関係者との情報交換をおこなっている。異空間に対するダメージを防ぐための居室作りや、寄り添うことによる心の安定を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの状態に合った声掛け、その場の雰囲気や活動内容にあった対応を行っている。入浴や排泄については、特に本人の心理状態、表情を見ながら気持ちに添った対応に心掛けている。個人情報に関しては、守秘義務の重要性を家族、スタッフ間で了承している。	○ 常にGH職員としての資質向上を意識し、尊厳と思いやりのある関わり、誠実な対応のできる職員でありたい。高齢者に関わる上での職業マナーとして、自分の言動に責任を持ち、お互いを高め合って行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定や好みに合った生活スタイルを会話の中で働きかけたり、利用者の意思に添った対応を行っている。また決まり事や職員サイドの都合を優先せず臨機応変に対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の身体状況の低下に伴い、活動量の低下も否めないが、日常の中で一人ひとりの思いや希望を察知し支援している。決まり事や職員サイドの都合を優先せず臨機応変に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの服や好み等本人の意思を尊重し自由に選んでもらったり、職員がアドバイスしながら個性を尊重している。尚、理美容については職員による染髪、カットを実施しておりその時間を活かした会話や交流の機会となっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを会話の中から引き出したり、好みや得意なこと、できることへの力を発揮できるよう、利用者、職員と一緒に準備、食事作り、片付け、掃除等を行っている。	○ 作ること、食べる事の楽しみを共有することで、より親しみのある関係作りと、長年の暮らしの中で培った習慣、得意なこと等、できることの喜びを、共に大切に支援して生きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、飲酒、喫煙習慣の対象者はいないが、誕生会や各行事等において日本酒やビールを楽しんでいただいたり、甘いもの等の嗜好品は随時楽しめるよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間毎の声掛け、誘導を行っている。居室内での排泄行や不潔行為の減少を図るため、本人の行動の見守り、日々の状況の変化に添い、職員間の連携を取りながら特に重視している支援である。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴体制をとっている。当ホーム横の温泉施設より温泉を引いており、毎日入浴されている方が多い。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者に合った作業や活動を一緒に行い、日中の生活が退屈なものにならないように、また居室の温湿度、寝具等の調整により快い睡眠が得られるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や持てる力、能力を活かした支援を行ない喜びや楽しみにつなげている。役割の定着も見られ一日が円滑に流れるような自主的な行動がとれるようになっている。一人ひとりがなんらかの形で関わりを持ち、張り合いのある生活が送れるような支援を行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、希望や力量が揃った一部の利用者は所持しているが、事務所預かりの方が多い。買い物を行う際は本人の希望により財布を持ち、自ら支払いできるよう支援している。	○	人が生活する上でお金は大切な関わりを持っている。一人ひとりの状態に添いながら、可能な範囲で金銭を使ったり払ったりする生活行為、楽しみを支援して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲に広大な敷地を有しており、四季折々の風景や花が楽しめ、散歩に出かけたり、地内の温泉や物産館へも毎日買い物に出かけたりしている。地域の神社へのお参りや町内外への買い物等、利用者の思いや状況に添うことができている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年度は、一泊旅行の機会を設け、利用者が家族と共に参加し、楽しみを共有でき一緒に時間を過ごすことができた。今できることを見つけ、喜んでいただける機会を作り今後も個別の楽しみ、共通の楽しみ事を広げて行きたい。利用者の希望に添った日常的な外出は随時行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りに関する代読、代筆を行ったり、本人の希望に添い日常的に柔軟に対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい環境、雰囲気作りに努力している。出迎え、見送り等接客マナーに心掛け来訪者に対し節度を持ち、常に変わらない態度で対応できるよう努めている。また四季の草花を玄関周りに植えたり、室内に野の花や花壇で咲いた花を置き、心地よい空間作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、全員が認識をもっており、認知症介護に携わるスタッフとして正しく理解し全く行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関及び居室とも施錠せず、開放的な空間の中で生活していただいている。夜間の施錠時間は居室は19時、玄関は面会者のため遅くまで解放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物の構造上、見守りが行ないやすい造りになっている。一人ひとりの位置や様子は把握できているが、9室のうち5室は居室から自由に入出入りできるため、近隣迄出て行かれることもある。離所や危険防止に常に配慮している。	○	事業所全体の協力を得ながら職員間の連携強化により、離所の危険性を常に意識し、所在確認を行い安全な生活を支援する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員間の話し合いを行い、入居者に危険の及ぶことのないような場所での保管を行っており、居室や持ち出し可能な場所への配置はしていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書は回覧し、更に職員間で話し合いを行い情報を共有すると共に、一人ひとりに合った危険予知、事故防止について随時検討を行っている。また毎月の事故防止委員会を実施し再発防止につなげている。	○	常に危機感を持ち発生時の適切な対応、今後の防止策につき充分話し合い、確認する。一人ひとりの状態に応じた個別の防止策のもと、事故防止に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	経験を有した職員ばかりであり応急手当は一応可能であるが更に勉強会で蘇生法につき機会を得ながらで学びを深めている。	○	常時継続的に学びを深め、確実に対応、実践できるよう全職員がマスターする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	GHのみでなく、事業所全体での勉強会や訓練に参加したり、GH独自の避難訓練を定期的実施している。夜間想定訓練を主とし、職員連絡網の伝達を実施し非常時の迅速な対応と、訓練後の改善策につき全員で検討している。地域との連携においては、協力を得られる体制ができています。	○	地域密着型施設として、今後も運営推進会議や地域会合の中で協力体制作りの重要性を呼びかけ、地域住民の方々との支えあいを更に働きかけて行く。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	当GHの運営方針や生活全般におけるリスク発生の可能性につき理解を得るため、重要事項の中で家族や関係者に充分説明し、理解を得ている。また随時家族との会話の中で重ねて説明している。しかしオープンな生活から起こり得るリスクは数知れずあり、利用者個々の状態を検討し対応している。	○	常に現状報告を密に行い、予測されるリスクの発生につき話し合うと共に、当GHの理念に添った威圧感のない生活支援を行なっていくことについてご理解いただく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時の健康チェックを行い一人ひとりの状態により、必要時は随時再検し早期発見、改善、悪化防止に努めている。状態変化については看護師と連携をとり速やかな対応に努めている。	○	変化の早期発見と迅速な対応を基本とし、報告、連絡、相談を徹底する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録に薬の副作用が記された処方箋を綴り、用法・用量の把握に努めている。症状に変化が見られた場合は主治医に報告連絡・相談を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜の多い献立、1000cc以上の水分摂取を心掛けている。運動については散歩、室内ゲーム、室内外の軽作業等を行っている。把握が必要な利用者については、それぞれに合った排泄支援を実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、一人ひとりの口腔状態を観察し支援している。義歯は夜間洗浄液に浸している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	今年度も冬季の発生に向けた研修やシミュレーションによる対処法につき全員が学びを深めている。また家族への早期の呼びかけや文書送付により感染防止策の一環としている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○	食中毒及び感染症に関わる知識を深め、食材、器材の取り扱いには最新の注意を払い、事故発生防止を年間の目標とし、調理に携わる。うがい、手洗いを徹底し職員自らの健康管理を充分に行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	居室は7畳程度しかない広さであるが、できる限り長年生活されてきた我が家の再現をしていただきたいというのが職員の本音である。しかしながら利用者の認知症及び身体的レベルにより居室内をシンプルにせざるを得ない場合もある。家具を置くということはハイリスクにもつながり悩みは尽きないが、できる限り理想を求めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが安心と馴染みのある室内環境作りに配慮している。家具の配置、使い慣れた生活用品により本人にとっての心地よい空間となるよう家族、本人と相談しながら工夫している。入居時、新しく購入されることも多く、馴染みの安心感が得られない場合もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温との調和を考慮し、季節による温度調節は特に気をつけている。また体調の変化に充分配慮しながら、利用者の状態に合った室温調整を行っている。居室の臭気防止、換気については、状況を見ながら随時行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境面における安全性に十分に配慮し、工夫、検討している。内部はバリアフリーになっており、特に風呂場、脱衣場については一人ひとりの身体状況に合わせて手摺を更に追加し入浴時の安全に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状態を見ながら、必要に応じ解りやすい表示を掲示したり、居室内の模様替え、最小限の範囲での居室変更等行い、一人ひとりの状況を総合的に判断し、自立した生活ができるよう職員のアイデアを活かしながら工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲には庭や空間があり、両棟の間には自由に行き来できるようウッドデッキを設けている。玄関前スペースには利用者同士の交流や外気浴の場となるようベンチを置き、自由に活用していただいている。すばらしい自然環境があり快適な暮らしや、活動の楽しみにつながっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・環境に恵まれた中にあり天然温泉100%の入浴が毎日できる。 ・全職員が豊富な介護経験を有しており、柔軟な対応ができる。 ・家庭生活においても経験が豊かな 職員ばかりであり、料理のメニューも多彩であり上手。